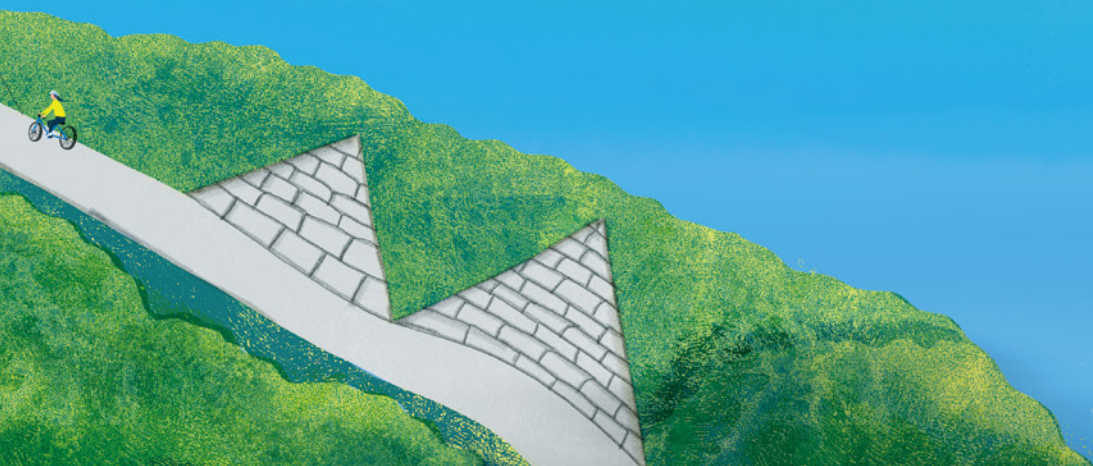




わたしと、 あなたと、 しまのしあわせ

第2期上島町総合戦略 | 概要版



わたしたちは島で暮らしています。

わたしたちの島のよさ

それをずっと保てる。

こうだったらいいなと思うこと

それにのびのびと挑戦できる。

そんな場所をみんなでつくって如果能たら、

わたしたちの島はずっと豊かに

残っていくのではないかと思います。

そこで、島の若者たちが

「大切にしたい5つのこと」

を考えました。

20年後も30年後も

この島の暮らしが幸せでありますように。

わたしと、
あなたと、
しまのしあわせ

第2期上島町総合戦略 | 概要版

上島町は2022年10月に「第2期上島町総合戦略」を策定しました。これは島の幸せな暮らしを未来に残すための行動計画をまとめたものです。画期的だったのは、若い世代の町民たちが話し合い、総合戦略の基礎となる価値観を決めていったこと。わたしたちがこの先も島でずっと幸せに暮らすためにどう行動するか——を考える上でまず「そもそも島の幸せって何?」ということ、若者たちは話し合い、明らかにしました。それがこの本を通して目にする、「海と自然」「歴史・文化」「暮らし」「なりわい」「人と人との関係」の5つのことがらです。この本では町民自身が語り合った「幸せ」を軸に、第2期上島町総合戦略のあらすじをお伝えします。お子さんからお年寄りまで、島のこれからを考えるきっかけになれば幸いです。

しごと ば あそ ば
仕事の間でもあり、遊び場でもあり、

うみ ふか
海はわたしたちと深くつながっている。

しま しぜん まな
島をとりまく自然をよく学び、

かんけい い
よりよい関係で生きていこう。



大切にしたい
5つのこと

1. 海と自然



まつ しま いちだい
祭りは島の一大イベント。

おとな こ いっしょ あせ なが
大人も子どもも一緒になって汗を流す。

ぶん か のこ おも
この文化をずっと残したいという思い。

まつ ほこ
それは祭りに「ふるさとの誇り」を

かん
感じるからなのかも。

大切にしたい
5つのこと

2. 歴史・文化

まわりに知っている人が多いから、安心する。

子どもはみんなに見守られてのびのびと成長し、

そして、年をとってもずっと住みつづけられる、

そんな暮らしをまもりたいよね。



大切にしたい
5つのこと

3. 暮らし

みんな自分らしい働きかたができる。

だれでも、いくつからでもあたらしいチャレンジができる。

それがみんなの暮らしを、地域をもっとよくする。

そんな前向きな島がいい。

大切にしたい
ちつのこと

4. なりわい



しま　ひと　しま　ひと
ずっと島にいる人も、あたらしく島にきた人も、

おそ　しあわ
みんなが教わりあい、幸せをあたえあう。

き　も　し
そんな気持ちがおたがいのよさを知り、

い　ご　こ　ち　ち　い　き
だれもが居心地のいい地域をつくるんだらう。

大切にしたい
5つのこと

5. 人と人の関係

若手の町民が 考えた5つの 大切なこと

この第2期上島町総合戦略策定にあたり、
大きく3つの取り組みが行われました。

まず2019年7月に若手町民約10名がメンバーの
「コアチーム会議」が立ち上げられ、
総合戦略の策定方法などを事前に話し合いました。
その場において、
【わたしたちが大切にしたい5つのこと】、
つまり「海と自然」「歴史・文化」「暮らし」
「なりわい」「人と人との関係」が決まりました。

次に、合計約40名の若手町民からなる
5つのワーキンググループが発足し、
5つのことについて個別に、さらに深く議論していきました。
ここでまとまった考えが、総合戦略の基礎になっていきます。

それを受けて最後に上島町が、
今後取り組む目標を盛り込んだ
第2期上島町総合戦略をまとめ上げました。

ここからは、総合戦略を策定するうえで
重要な役割を果たした、
大切にしたい5つのことについて、
詳しく紹介します。



第2期上島町総合戦略 策定プロジェクトの記録

2019/7/31	第1回コアチーム(CT)会議
8/5	第2回CT会議
8/21	第3回CT会議
9/6	第4回CT会議
9/17	第5回CT会議
10/28	第6回CT会議
11/27	第7回CT会議
12/18	第8回CT会議
2020/1/22	第9回CT会議
	コロナウイルス感染症対策により中断
2022/3/29	ワーキンググループ(WG)キックオフ会議
5/10	第1回WG5「人と人との関係」
5/12	第1回WG1「海と自然」
5/17	第1回WG2「歴史・文化」
5/24	第1回WG3「暮らし」
	第1回WG4「なりわい」
5/30	第2回WG1/WG2/WG5
5/31	第2回WG3
6/7	第2回WG4
6/9	第3回WG1/WG2
6/17	第3回WG5
6/20	第3回WG3
6/21	第3回WG4
6/28	第4回WG4
6/29	第4回WG2/WG5
7/4	第4回WG1
7/15	町長、役場職員を含めた最終報告会
8/30	上島町総合戦略等推進会議にて承認
10/1	総合戦略策定

5つのワーキンググループ

ワーキンググループ1 「海と自然」	
ワーキンググループ2 「歴史・文化」	
ワーキンググループ3 「暮らし」	
ワーキンググループ4 「なりわい」	
ワーキンググループ5 「人と人との関係」	
最終報告会	



かみじま流の豊かさ、幸福のある暮らしのために
わたしたちが大切にしたい5つのこと

海と自然

漁師さんが魚をとってなりわいにする。

真夏の暑い日に海水浴で涼む。

夕日を受けて輝く海を見て心が和む。

菜園の新鮮な野菜が食卓をにぎやかにする——。

わたしたちの暮らしが豊かであるためには、

美しく豊かな自然がなくてはなりません。

しかし、わたしたちは自然のなりたちやしくみを

十分理解できているでしょうか。

当たり前にあるものだと思っていないでしょうか。

自然から奪うのではなく、よい関係で共存できるよう、

わたしたちは自然についてもっと学び、

創造性を磨いてゆきます。



島の自然環境を誇り、美しさを保つ。

わたしたちが暮らす瀬戸内の多島美は、世界に誇ることができる素晴らしいものです。時間とともに変化していく海や山の色彩は心を豊かにしてくれます。ゴミがなく美しい砂浜や山道を歩くのは気持ちよいものです。わたしたちは自然の美しさを保てるよう行動し、より豊かな心で自然と向き合えるよう心がけていきます。

よいバランスを見つけ出す。

海や山にはたくさんの生き物が生態系のバランスを保って暮らしています。しかし現在、海は栄養が少なく魚を育む藻場が育ちにくなり、魚も減っています。山ではイノシシが増えて作物の被害がでています。どうしたら栄養豊かな海になるのか。イノシシと共存できる方法はあるのか。人と自然の調和のあり方を見つけ出すことが求められています。

自然を学ぶ。自然から学ぶ。

わたしたちを取り巻く瀬戸内の自然。それは素晴らしい学びの場でもあります。自然教育や環境教育という言葉ができる前から、島の先人たちは自然と共に生きる知恵や技術をもっていました。あらためて、わたしたちは大学や高等専門学校などの研究機関の知恵も借りながら積極的に自然を知り、その学びを暮らしに生かしてきたいと思います。

自然を生かしたチャレンジを応援する。

海や山が豊かだと、その資源を生かした新しいアイデアで仕事づくりに挑戦する人が出てくるかもしれません。それは島に新しい価値観をもたらし、豊かな多様性をつくります。そんなチャレンジをみんなで応援しましょう。自然をなりわいにする人々がより前向きに仕事に取り組めるよう、時代にあった仕組みを取り入れることも大切です。

わたしたちの営みが、より良い自然環境をつくる。

わたしたちが暮らしを通してしっかり自然のことを想って行動したら、自然環境がよりよくなる。それがわたしたちの暮らしをもっとよくする。ぜひそんなサイクルをつくり出しましょう。例えばプラスチックゴミを海に捨てないようにすれば、浜はきれいになり、わたしたちは気持ちよく散歩できます。できることから始めてみましょう。



2.

かみじま流の豊かさ、幸福のある暮らしのために
わたしたちが大切にしたい5つのこと

歴史・文化

暮らしの豊かさを願う、秋祭りや雨乞い踊り。

道端にあるお地藏さん。

地域でとれる食材を活かした食文化。

島に残る行事や風習などのあらゆる文化は
「生きること」そのものが切実だった時代に生まれた
祈りのかたちや、生活の工夫でした。

では、暮らしがずっと安全で便利になったいま、
歴史や文化を大切にし、つないでいく意味は何でしょうか。

それはきっと、「わたしたちらしさ」がそこにあるから。

世界中探しても、同じものはないのです。
だから、わたしたちは自分たちの文化に誇りを感じ、
ずっと残していきたいと願うのではないのでしょうか。



わたしたち自身が主人公としてつなぐ。

わたしたちの島々には古い時代から人々が住んでいて、今まで途切れず歴史や文化が紡がれてきました。行事や習慣だけでなく、住宅や寺社、石塔のような建築物や遺構などもそうです。わたしたち自身が主人公として歴史や文化のあり方やその価値を学び、次世代に渡すこと。それが「わたしたちの島らしさ」を未来に残すことになるのです。

島の歴史・文化を愛する。

「わたしたちの島らしさ」の根っこが歴史や文化だとすると、もしそれを好きでいられたら、わたし自身のことも認められる気がします。なぜなら、わたしも島で生きる一員だからです。祭りなどの行事ごとは時代に合ったかたちに変えていく工夫も必要な一方で、そこに込められた想いを知ったうえで大切にしていきたいものです。

文化の土台 — 地域のつながりや景観を守る。

文化の担い手になるのは、わたしたち自身と、地域のつながり（コミュニティ）です。それから例えば、島のいたるところに島四国の札所が立ち並ぶ風景なども立派な歴史・文化的景観です。わたしたちは「身近に歴史や文化が存在していること」に気づき、次世代につなぐために守っていかなければなりません。

歴史・文化と共にある幸せ。

地域のお祭りは、普段とはちょっと違う雰囲気子どもからお年寄りまで集まります。同じ地域のご近所さんたちと一緒にだんじりを組み立て、歌や踊りの練習をし、お祭り本番は力を合わせて楽しむ。そのやり方一つひとつがわたしたちの文化そのもの。その中で同じ時間を共有することはかけがえない幸せですよ。

歴史・文化を、さまざまなつながりのきっかけに。

わたしたちがもつ歴史や文化。実は外から見ると珍しかったり、面白かったりします。例えば国の史跡に指定された弓削島の「塩の荘園」や、岩城島積善山の「三千本桜」、生名島の「メンヒル」、魚島の「篠塚さん」など。それらを学び、島の外にも伝えることが、文化交流や観光などで島をにぎやかにするきっかけにもなります。

3.

かみじま流の豊かさ、幸福のある暮らしのために
わたしたちが大切にしたい5つのこと

暮らし

わたしたちが何気なく送る島の日常は、
よく考えると、とても、「ちょうどよい」。

穏やかな海に浮かぶ島々の暮らしは、
自然が豊かで、季節の移り変わりを楽しめます。
学校に通うのも、病院に行くのも、買い物をするのも、
だいたいの日常生活は、島のなかで完結します。

クルマの交通量が少なく、みんな顔見知りで、
子どもから大人まで安心安全に過ごせます。
コンパクトな島だからこそ時間に余裕があり、
居心地のよさにつながっています。

不便さもあるけど、それも受け入れたうえで、
わたしたちの暮らしが、ずっと、
「ちょうどよい」かたちでありますように。

ちょうどよい不便さ、豊かさを認める。

島の外に出るには船の時間にしばられますが、高速道路や空港、新幹線が停まる駅にも意外と近い。また島内には学校や診療所、スーパーもあり、実はそれほど不便でなかったりします。島内がコンパクトだから、買い物などの移動に時間があまりかからないのもいい。ほどよく不便、ほどよく便利なところに島のよさがあると感じます。

島ならではの心地よい関係性を築く。

すれ違う誰とでも挨拶を交わし、分け隔てなく温かく接する雰囲気がわたしたちの島にはあります。小さなコミュニティだからこそ、お互いが気づかいなく交流できる。これからお互いがちょうどよい距離感で無理のない関係性を続けることができれば、コミュニティの居心地のよさや、島ののんびりとした雰囲気を保つことができると思います。

子どもが学び、成長する環境を整える。

島には6か月の乳児が入所できる保育所から高校や高等専門学校まであり、学びの環境は充実しています。少人数なのも利点です。さらに魅力ある教育環境づくりのために、全国から多様な子どもたちを受け入れたい。地域づくりの観点からも学校は必要です。子どもたちにとっても地域にとっても、よい教育環境を整えていきます。

いくつになっても健やかに暮らせる島に。

何歳になっても、健やかで安心して過ごせるような島であってほしい。そのためには、必要なときに病院で受診できたり、必要に応じて福祉サービスを受けられたり、そのための交通手段の不安をなくしたりなど、地域医療の仕組みを整えていくことが大切です。わたしたち自身も、日頃から健康的な生活を送れるよう心がけていけたらいいですね。

暮らしやすさを支える土台を守り、保ち続ける。

島には上下水道も、高速インターネット回線も整っています。船はひんぱんに行き交うため、交通の便も悪くありません。それらはわたしたちの暮らしを支える土台であり、その維持は未来の島の暮らしにとっても大切です。さらに、空き家・空き地の利活用も進めていくことで美しいまちなみや生活環境も整えていきます。



4.

かみじま流の豊かさ、幸福のある暮らしのために
わたしたちが大切にしたい5つのこと

なりわい

なりわいとは、人が暮らしを営むための仕事のこと。
それは、わたしたちの島の豊かさも支えています。

「どのように働くか」は、
「どのように生きるか」と、とても似ています。
なりわいは、「わたしはこうありたい」という思いを
かたちにする手段の一つでもあるのです。

島のなかで仕事の選択肢が多ければ、
よりわたしらしく生きることができる。
もし、いま島になれば、自らつくることができる。
その新しいチャレンジを、上島町も住民もみんなが応援する。
そういった気持ちが、島をさらに豊かにする。

そんな未来であれば、きっと楽しいと思いませんか？

働き方に、もっとたくさんの選択肢があればいい。

仕事が自分のライフスタイルを実現する手段だとしたら、仕事や働き方の選択の幅は広い方がいい。例えば仕事内容だけでなく、働く時間や休みを自分の暮らしに合うように選べると、島で働くことがより前向きになるでしょう。「しないといけない」から「したい」仕事へ。それは仕事をするすべての人にも、島にもよいことにつながります。

つながることで、より豊かに。

例えば、農家さんが捨てようとしていた柑橘が、カフェでシロップに生まれ変わる——。そのように、仕事同士がつながり、それぞれの「得意」が合わさることで、新たな価値をつくり出すことができます。さらに、仕事をめぐるさまざまなつながりが、暮らしの楽しさや幸せをより感じるきっかけにもなるでしょう。

なりわいで人を活かし、島を活かそう。

新たなビジネスのきっかけは、島のいたるところにまだ眠っています。傷んで価値のなくなった空き家が、人の手によって素敵なお店に生まれ変わることもあります。これまでなかった仕事生まれることで、島の人々の才能が発揮されることもあるかもしれません。人も島の資源もより活かせる可能性が、仕事には秘められています。

挑戦は、いつでも、いくつからでも。

人生のどのタイミングでも、新しい仕事に挑戦できることは、嬉しいことです。さらに、周りに自分を応援してくれる人々がいれば、もっと頑張れます。そうして、自分の仕事づくりがみんなの暮らしをより豊かに楽しくできるとなれば、とても幸せ。誰もが自由に挑戦できる空気を、みんなで創っていきませんか。

未来の働き手に、よいバトンを渡す。

進学や就職などで、一度は島を出ていく子どもたち。将来、子どもたちが大人になったとき、島の仕事や働き方が魅力的であってほしい。そのために、まずは今の大人たちが楽しく、自分の仕事に誇りを持って働いているのを見せたい。わたしたちの仕事への前向きな姿勢が、次世代の働き手にとってよいバトンになるでしょう。



5.



かみじま流の豊かさ、幸福のある暮らしのために
わたしたちが大切にしたい5つのこと

人と人との関係

わたしたちはお互いを思いやって暮らしています。

ご近所同士でのおすそ分け。

お祭りでの世代を超えた交流。

地域全体での子どもの見守り。

こういった関係性を、これからも守っていききたい。

岩城橋が開通し、人々の交流はさらに盛んになります。
だからこそ、人との交流で大切にしていきたいことがあります。

それは、人それぞれの多様性を認め合うこと。

そうすることで、わたしたちは自分らしく、イキイキと過ごせます。

誰もが、個人の能力や特性を活かして、活躍できます。

今あるつながりを大切にしながら、

新たなつながりも広げていきます。



多様な他者との交流で、お互いの違いを認め合う。

人々の交流の輪は、これからさらに広がっていきます。人の往来が増え、考え方や価値観の交流もさらに盛んになることでしょう。そんな今だからこそ、「みんな違って、みんないい」の精神でいきましょう。お互いの違いを受け入れ、認め合うことで、誰もが「自分らしく」なれる素敵な島をつくることができます。

世代を超えたつながりを大切にする。

祭りの季節に、地域の大人たちから歌や踊り、太鼓を教わった思い出はありますか？ 地域行事などを通じて、お年寄りから小さな子どもまでが同じ時間・同じ場所を共有することで、それぞれが学び、刺激を受ける。島らしい、よい文化です。職場や学校とは異なる、世代を超えたつながりを大切にしていきたいものです。

周囲を思いやり支え合うコミュニティを広げる。

お接待の文化からも分かるように、島には困ったときに互いに助けあう、気にかけてあう安心感があります。ご近所での付き合いにも、おすそ分けの文化が。近すぎず離れすぎず、心地よい関係が築けたら、暮らし自体も心地よいものです。この支え合いのコミュニティを、地域や島を超えて町全体に広げていけたらもっと素敵です。

島全体で子どもたちを見守り、育んでいく。

夕暮れ時、子どもが外で遊んでいると、近所のおばあちゃんが「そろそろ帰る時間だよ」と声をかけてくれる——親や先生だけではなく、地域全体が子どもを見守り、育んでいく環境があります。子どもたちにとっても、地域の大人との気軽な交流を通してさまざまな学びを得ることは、多様な生き方を知ることにつながっていきます。

多様な人が集い、暮らす島の環境づくりを。

これまで大切にしてきたつながりに新たなつながりが加わって、発展していく。そのような刺激が、島を多様性あふれる、しなやかで力強い場所にしていきます。そのためには「移り住みたい」「戻って来たい」という人の願いが叶うようにしておきたい。まずは、働く場所や住む場所といった環境を整えていくところから始めていきましょう。



わたしたち みんながつくる 島の未来

さて、ここからは

第2期上島町総合戦略の全体像を紹介します。

ちょっと難しくなってきますが、目を通してみてください。

この総合戦略は、島の未来への行動計画。

大事なポイントは、

わたしたち一人ひとりが「自分事」として

島の未来づくりに参加することです。



住民参加の総合戦略づくり … P.26

総合戦略が目指すもの …… P.27

上島町がたてた目標 …… P.29

おわりに「夢の島の未来へ」… P.31



この冊子は第2期上島町総合戦略のポイントをやさしく説明する概要版です。正式版は上島町公式ホームページからダウンロードできます。また、役場各支所でもお渡しできますので、ぜひお手にとってご覧ください。

<https://www.town.kamijima.lg.jp/soshiki/4/8028.html>



住民も参加した 初めての 総合戦略づくり

上島町企画情報課

檜垣 明宏

総合戦略は行動計画

町民の皆さんにとっては、町の「総合戦略」って聞いても、「何それ?」と思われる方も多いと思います。国は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という計画をつくり、それに基づいていろいろな取り組み（政策）を行なっています。町の総合戦略は、言うなればその地方版です。

上島町には、「上島町総合計画」——町の未来像やまちづくりの理念を示した最上位計画があります。総合戦略は、その目標を達成するために具体的に何をやっていくかを盛り込んだ行動計画(アクションプラン)です。今回策定したのは、2016年策定の第1期総合戦略を更新する第2期総合戦略です。

策定に当たって、私たちはまず地方創生の先進地である徳島県神山村へ視察に伺いました。そこでは総合戦略を行政（役場）だけでなく民間の若手が参加して策定、しかもその達成状況を定期的に役場と民間が一緒に点検し、フォローアップを行なっています。私たちはその取り組みに感銘を受け、「上島町も同じように、さまざまな生き方をしている次世代を担う町民の皆さんと一緒に、町の未来を語り、考え、行動していきたい」という思いから、町民参加型のワークショップ*によって今回の第2期総合戦略を策定することにしました。

住民みんなが自分事として

まず、あらゆる分野で活躍されている町の若手の皆さんにお声がけし、このプロジェクトの基本方針を話し合う「コアチーム会議」を立ち上げました。その会議で、総合計画に定められている「世界に誇れる品格あるふるさと～上島流の豊かさや幸福のある暮らし～」という「上島町の未来像」を突き詰めて考え、その幸福とは一体何なのかを明らかにすることが、上島町を未来につないでいく総合戦略の土台になるのではないか、という方針を定めまし

た。そして選定されたのが、上島町らしい大切な5つのテーマだったのです。さらに、多種多様な町民の方が参加する「ワーキンググループ」を立ち上げ、彼ら自身が未来を語るワークショップを行っていくこととしました。

私もこのプロジェクトの責任者として5つのワーキンググループのワークショップに参加しました。このような手法をとるのは上島町で初めての経験です。不安のなか手探りの状態でスタートしましたが、ワークショップが始まると、参加者の皆さんが上島町のことを「自分事」として捉えて、そして自ら主体性をもってこれからの上島町について深く考え、活発な議論が行われました。私はその姿にととても感動し、頼もしく感じました。

ともに町の未来を考える

参加者の皆さんも、最初は戸惑いもあったかと思いますが、ワークショップを重ねていくうちに共通の目標をもつチームとしてまとまっていきました。最後には、「このワークショップに参加してよかった」、「いろいろな島の人、業種の人、知らなかった人と話し、交流することができた」といった感想もいただきました。このワークショップを開催した意義はこの言葉に表れていると感じています。

そして、ワークショップの締めくくりとして、5つのワーキンググループのメンバーと町長・行政職員が参加し成果発表会を開催。ワーキンググループの上島町に対する想いや考えを行政職員もしっかりと共有しました。それを総合戦略の施策立案に活かし、ここに町民と行政による協働の総合戦略を策定することができました。これは上島町を未来へつないでいくための、持続可能な町づくりのための戦略です。これまで総合戦略は行政だけでつくってきました。しかし今回、それを町民参加型で行えたことは、町民の皆さんと行政が同じ立ち位置でともに町の未来の夢を描き行動するはじめての一步である、そんな大きな意味があると考えています。

* 参加者が主体となって、考えを深めまとめていく集会

総合戦略って何を 目指してるの？

上島町企画情報課
倉橋 宗大

まず結論から言うと、今回策定した第2期上島町総合戦略の最も大きな目的は、将来の目標人口を達成することです。それは、具体的には

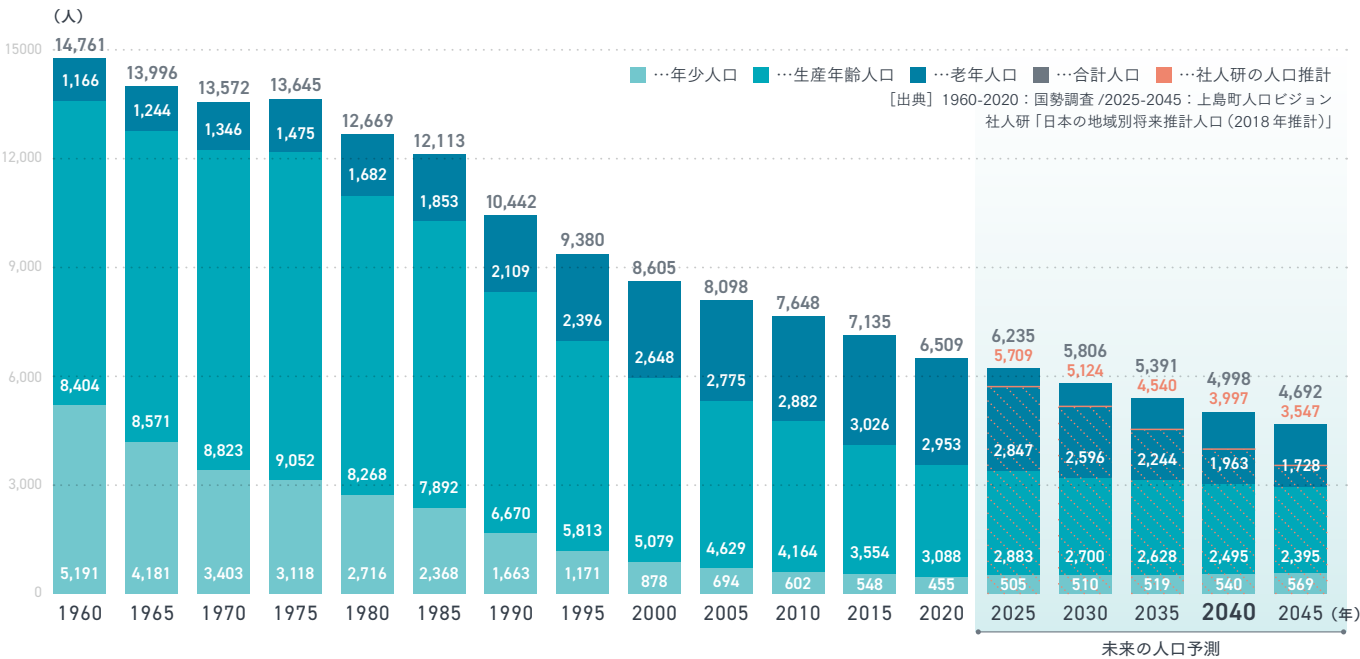
2040年、上島町に 5,000人が住んでいること。

いまの人口減少のスピードを考えるとなかなか難しい数字なのですが、そのためにはなるべく減少スピードを緩めることが必要。そこで、「上島町にこれからずっと住み続けたい」「また帰りたい」「住んでみたい」とひとりでも多くの人に思ってもらえるような町になることを目指す——それがこの総合戦略の基本的な考え方になっています。

上島町の人口の移りかわり

まず、これまでの人口の移りかわりを見てみましょう。日本の人口は2008年を境に減少しており、2020年10月1日時点で約1億2,615万人でした。しかし、老年人口（65歳以上）は増えています。2020年に約3,603万人、総人口に占める割合は28.6%となり、今後も増え続ける見込みです。

一方、上島町は日本全国の人口減少の最先端とも言え、1950年に15,552人となりましたが（2004年以前は旧4町村の合計）、以後は減少に転じ、2020年には6,509人となっています。年齢区分別の推移を見ると、年少人口（15歳未満）と生産年齢人口（15歳以上～65歳未満）は減少が続いています。一方で、老年人口は増加が続いていましたが、2017年をピークに減少に転じました（下グラフ）。



総合戦略が掲げる5つ基本目標

1. 人と海・山・里が共存するまちづくり
2. 歴史・文化を継承し、活かすまちづくり
3. 誰もが今ある豊かで幸福な暮らしを継続していけるまちづくり
4. 誰もが希望をもって働き、活気あふれるまちづくり
5. 人が活発に交流し、ふれあいのあるまちづくり

人口が減ると何が起こるの？

このまま人口が減少していくと、町の中でさまざまな変化が起こります。例えば、店舗や医療機関といった生活に必要な施設が減ったり、学校が休校・統廃合する、定期航路や行政機関が廃止されるなど、日常の暮らしに大きな影響をおよぼします。特に、地域に学校があることは人口と深く関係しており、学校がなくなった離島はさらに人口減少が加速したという調査結果もあります。

また、祭などの地域行事や集落の清掃活動など、これまで住民同士で担えていた取組みが継続できなくなる可能性もあります。そうした、住民同士が日常的に顔を合わせる機会が減少することで、地域コミュニティが希薄になり、災害時などの助け合いができにくくなることも考えられます。

このように、町から人が減っていくことは、町で行われるあらゆる活動——経済や産業、生活・教育、健康・社会保障、地域活動や伝統行事などに大きな影響をおよぼします。その結果、住民にとって暮らしにくくなり、魅力的な町ではなくなってしまうことで、さらに町の外へ出ていく人が増え、外から来る人は減ってしまうという悪循環におちいります。日本全国さまざまな自治体で人口増加に向けた取組みに汗を流しているのはそのためなのです。

町の人口減少を緩やかにするために

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）が行った推計結果によると、上島町の人口は今後も減少を続け、何も対策を講じなければ、2045年には3,547人と、今後20年あまりで現在の約半分にまで減少すると予測されています。

しかし、この推計値は上島町の実情が反映されていないため、町も独自で将来人口を予測しました。その結果2020年3月に策定した「上島町人口ビジョン」では、

2045年の上島町の人口を4,692人と展望するとともに、人口減少のスピードの緩和を図る施策を実施することにより、2030年に5,800人、2040年に5,000人を維持することを目標としています。

特にこの人口ビジョンで重要なのは、「年少人口を増加させる」ことと、「生産年齢人口の減りになるべく少なくする」ことです。そのため町はより一層、子育てしやすい環境づくりや移住環境の整備、働く場の創出、農家や漁師などが儲かる仕組みづくりなど、さまざまな取組みを進める必要があります。嬉しいニュースとしては上島町への移住者は年々増加傾向で、2021年度は52人の方が移住されるなど、取組みの効果は着実に表れ始めています。

総合戦略が掲げる5つの基本目標

さて、この第2期上島町総合戦略の中には地方創生や人口減少の課題解決のための具体的な取組みがいくつも掲載されています。それらは上の「総合戦略が掲げる5つの基本目標」をもとに企画立案されたものです。そして、この5つの基本目標は、この本でこれまで見てきた、「海と自然」「歴史・文化」「暮らし」「なりわい」「人と人との関係」をテーマに活動してきたワーキンググループのメンバーの思い・考えがベースになっているのです。

これから上島町は、これらの基本目標に沿って取組みを進め、町の未来像の実現に向けて動いていきます。大切なのは、計画をつくって終わりではなく実行に移し、町民の皆さんの目に見えるかたちで実現すること。そのためにも、立てた目標が効果的に運用されているかチェックする方法も工夫しながら、戦略を着実に推進していきます。

上島町はこんな目標をたてました

「第2期上島町総合戦略」に記載されている、上島町が立てた目標(KPI¹⁾)のいくつかを集めました。
ここには5つの大切にしたいことがらを受けて、上島町が考えた取り組みと、その数値目標が示されています。
住民の皆さん自身も、わたしたちの島はどんな部分を伸ばしていけばよいか考えていただけたら幸いです。

〔数字のみかた〕 2021年度の現状値 ▶ 2025年度の目標値

*1. KPI = Key Performance Indicators 重要業績評価指標 *2. 2018年 - 2021年度累計 *3. 2022年 - 2025年度累計

農林漁業の
新しい担い手を増やそう!

農林水産業の新規就業者数

4人^{*2} ▶ 6人^{*3}

〔海と自然〕

人と海・山・里が

共存する

まちづくりのために

魚がとれる環境を
復活させよう!

整備された漁場の面積

149ha^{*2} ▶ 300ha^{*3}

土地を畑に活用しよう!

利用される農地の合計面積

36ha ▶ 40ha

イノシシ被害を減らそう

イノシシの捕獲頭数

1,044頭^{*2} ▶ 1,200頭^{*3}

新しい仲間
住んでもらおう!

町外からの移住者数

60人 ▶ 70人

〔暮らし〕

誰もが今ある豊かで幸福な

暮らしを継続していける

まちづくりのために

弓削高校を
存続させよう!

県立弓削高等学校への入学者数

24人 ▶ 40人

新しい町内交通の
しくみを定着させよう!

デマンド型交通の予約件数

26件 ▶ 300件

元気に年をとろう!

介護予防事業の利用者数

445人 ▶ 580人

地域でも、もっと
町の歴史を知ろう!

地域住民対象の講座などを開催する数

1回 ▶ 3回

〔歴史・文化〕

歴史・文化を継承し、

活かすまちづくりのために

学校で、もっと
町の歴史を学ぼう!

歴史文化学習支援を実施する学校の数

3校 ▶ 8校

歴史文化を
大切にする人を増やそう!

歴史・文化を継承する活動の参加者数

100人 ▶ 300人

中小企業の安定を
サポートしよう!

上島町中小企業振興資金融資制度〔新設〕

の利用事業者数

0社 ▶ 10社

〔なりわい〕

誰もが希望をもって働き、

活気あふれる

まちづくりのために

新しいお店づくりを
応援しよう!

新規店舗改修補助の件数

1件 ▶ 6件^{*3}

働く場所をもっと増やそう!

新たに仕事を増やす企業などの数

0社 ▶ 15社^{*3}

島時間を何日も
体験してもらおう!

町内宿泊者数

12,729人

23,000人

〔人と人との関係〕

人が活発に交流し、

ふれあいのあるまちづくりのために

島に来て、見て、
知ってもらおう!

観光入込者数

93,790人

225,000人

子どもを産み育てやすい
環境をつくろう!

出生数

9人 ▶ 15人

島の素晴らしさを
もっと感じてもらおう!

観光体験プログラム参加者数

2,000人 ▶ 3,000人

おわりに

夢の島の未来へ

右の「Island of Dreams」は
島に住む音楽家、デイブ・シンクレアさんが
島と出会ったときの印象を歌にしたものです。

「夢」というのはいろいろな意味を含んだ言葉です。
「希望」や「願い」を表し、また
「夢の場所」といった使い方もします。

わたしたちが暮らす上島町は
「ゆめしま海道」とも呼ばれています。
たくさんの人々のいろいろな夢が
かたちになっていく場所でもありますように。
決してさびることなく
未来につながっていきますように。

そんなことを願って、
たくさんの人々の手でこの総合戦略は立てられました。
主人公は、そう、わたしたちみんなです。

わたしたちが幸せに暮らす
夢の島の未来を、みんなでつくっていこう。

Island of Dreams

作詞・作曲 : Dave Sinclair
日本語版歌詞 : Yammy

著作権の都合により歌詞を表示していません

ワーキンググループ メンバー

ワーキンググループ 1「海と自然」

宮畑周平（瀬戸内編集デザイン研究所）、西本桂将（教育委員会）、馬木徳広（瀬戸内備長炭生産組合）、杉山奨（弓削漁協青年部）、斎藤サミュエル彰士（島旅ヨット）、古川優哉（まるふ農園）、浦安元太（浦安水産）、塩見尚徳（魚島漁協）、天野素晴（農林水産課）

ワーキンググループ 2「歴史・文化」

有馬啓介（教育委員会）、北濱大輔（弓削漁協）、平石美智子、山本ころ、工藤美絵（古民家ゲストハウス汐見の家）、佐伯和恵（魚島町民生活課）

ワーキンググループ 3「暮らし」

山之内彩美（book café okappa）、中山なぎ（島おこし協力隊）、浪切浩司（廣昭）、中坂富雄（ナカサカ電機）、寺下貴義（社協）、来住美里（ゆめしま未来塾）、大西幸江（町議会議員）、森本美智子（総務課）

ワーキンググループ 4「なりわい」

原田広志（しましま農園）、小林宣貴（観光戦略課）、竹林健二（ふくふくの会）、加藤康志（ゲストハウスとこのま）、宮畑真紀（Kitchen 313 Kamiyuge）、マシュー・ピーターセン（ゆげ海の駅舎「ふらっと」）、中浦一美（なかうら）、古本蒼志（いわぎ物産センター）

ワーキンググループ 5「人と人との関係」

上村建太（商工会青年部）、古江克己（弓削漁協青年部）、白石千夏（住民課）、山上翼（カットハウスヤマウエ）、恵美孝彦（社協）、西村すみれ（生名スポレク）、平田千都（海光園）

◎下線…コアチーム・メンバー。上記のほか、藤巻光加（まるふ農園）、福田広寿（社協）、村上大記（ネクストエイジインターナショナル）、濱口真弥（愛媛銀行）、亀井英幸（イワキテック）、村上徹（建設課）がコアチームに参加。

* 敬称略、順不同。所属は当時。



〔発行〕 上島町企画情報課
愛媛県越智郡上島町弓削下弓削210
Tel. 0897-77-2500
〔発行年月〕 令和5年3月
〔編集〕 宮畑周平（瀬戸内編集デザイン研究所）
〔デザイン〕 久我 遼
〔絵〕 松本沙希
JASRAC 出 2300807-301

